

テーマ「大学現役合格」

日時：9月25日（日）

場所：栄オアシス校

対象：大学受験生とその保護者

◆講演1／責任者 森浩晃

基礎なしに応用はできない

ジェイサチでは生徒さんにまず、自分は基礎ができているかどうかをよく見てもらいます。基礎なしに応用問題や過去問題が解けることはあり得ません。また、学年はあまり考えません。初歩から始めてどんどん先に進むピアノのレッスンと同じです。高1だからと高1の内容をやる必要はなく、もし中学の内容が不十分ならそれをやって、学年に追いつき、追い越していく。つまり一人ひとりに合ったスピードで基礎学力を徹底的に身に付け、その後、応用力を付けていくというやり方です。

基礎学力が測られるのは、今の入試制度ではセンター試験。廃止の方向ですが、たくさんのかことを記憶する、知識を蓄積するのは、新しい物事を作っていく時に役立ちます。だからセンター試験がなくなると言っても、覚えなくていいとは思わないでください。

そして、皆さんはセンター試験を受けなければいけません。センター試験は高3までの教科書レベル。たとえば英語なら教科書を50回も読めばほとんど暗記できるのでは。教科書にもランクがあり、偏差値の低い高校では数学を九九から入るものもあります。そんな教科書で勉強した子でもできる内容の試験が作られるので、一番優しい教科書を完璧に理解すれば、基本的には点が取れるのです。楽でしょ？では、なぜできないか。やっぱりまだ基礎学力が不十分だからです。

年長さんの学習のボードゲームを見ていて、思いました。どの位置にマルバツを置いたら3つ揃う可能性が大きいかがパッとわかるその感覚が、問題を解く時に必要です。小さい頃から遊びの中でこういう感覚を育んできたお子さんと、そうでないお子さんとは、小学校に入る段階で差が出ます。

まず教科書から完璧に

積み上げで身に付く基礎学力

教科書レベルがきちんとできるまで教科書をやる。ひとつでも解けない問題があったら、センター試験で満点を取れない可能性があるということです。前日までセンター試験の勉強しかしない生徒さんもいます。難しい問題をやっても点が取れないから。

青チャートをやるなどと言ってもやる子がいました。あれは何回かやってもできるようにならないのです。ただその子は53回やって、できるようになりました。東海高なのでその時間が取れ、徹底したのですね。しかし、あまりお勧めしません。もっと簡単に解けるからです。

僕は、高校時代の数学の教科書でわからない問題は1問もありませんでした。わからないものが残っていると嫌、そんな自分にしていかなくてはいけないのです。教科書をきちんとやって、次に問題集を始めたら、そこでも解けない問題をなくしていく。やり方は色々なので、一番いい方法を見つけていく。取り組み始めた問題をできるようにして、初めてやったと言えます。それを積み上げていくことで基礎学力が身に付いてきます。

私立大学にはセンター試験が関係ないところも多くありますが、基礎学力は必要です。トップ校は勝ち方を知っています。たとえばラサール高は赤本を3回繰り返します。灘高では9回とも聞きました。

教科書レベルは、考えなくても解けるぐらいの所に近づいてください。そうしたら2次対策、応用の所で余裕ができます。

大学の傾向に自分を合わせる

また、大学は、こういう問題が解ける学生がほしいと思って問題を作っています。それに合わせた対策も、センター試験対策と併せてやらなくてはなりません。これも勝ち方です。応用力の2次試験、また、私立大学にはそれぞれの傾向がありますから、その傾向にいかに関心を合わせていくかです。

自分の得意、不得意を見ながら大学を選ぶのもありでしょう。英語が得意なら、英語の配点が高い、あるいは難易度の高い大学を選ぶ。国語が得意なら、難しい問題を出す、つまり国語の力がある学生が欲しいと入試問題を通して言っている所を受ける。合格の確立が高まります。

本当の自分のレベルに

戻ることで早く確実に前へ

ここで言っているのは特別なことではありません。多くの高校はなぜ受かる勉強をしないのか不思議です。でも学校はカリキュラムが決まっているから、学年を越えていくしかありません。大学入試の所に間に合わなかった人は、何が足りなかったかを謙虚に見てください。ほとんどは基礎学力です。何年か前は小4の漢字からやった子が何人かいました。読み書きができないと問題も読めない、答も書けません。基礎学力とはそういうことです。

確率を勉強してもうまくいかないという場合は、中学校レベルのそういう問題を見直せばいい。基礎から積み上げて応用になるのが学問です。自分が今どの位置にいて、どのレベルだったら考えず解けるかを見て、そこまで戻ることで、短時間で前に進むことができます。

◆講演2 / 責任者 森幸子

繰り返しで力がついていく

赤本をここに持ってきました。一冊が国語の 2017 年センター試験の過去問研究で、25 年分、延べ 27 回分入っています。もう一冊は名古屋大学理系に関する過去の過去問で、直近 6 年分が入っています。年齢がいくつであれ、中学生であれ高 3 生であれ、大学受験を目指すならすでに買っておくべきです。

5 年前、国語の赤本の帯に「センター試験の国語は真の国語力を問うものではありません。何回もやったら解けます」と書かれていました。「ここに書いてあるからね。何回もやるのが大事だよ」と生徒に説明するのに便利だったのですが、帯がなくなってしまい、言ってもなかなか信用しません。しかし、何回も何回も、何回も解くことによって力はずいぶんついでいきます。ラサール高では高 3 までに 9 回という回数をやっています。森先生のお話にも出てきた一社校の木下先生は、東海高校から現役で名市大医学部に入りました。彼は青チャートを合計何回やったかという、53 回。すごいでしょ？そして A・B 群の B 群から、名市大医学部に現役合格。回数というのはバカにできないのです。

大学・学部の目標を絞り

データを使って戦略を立てる

各大学の傾向が書いてあるので、中学生のうちから読んでおいてください。現在の中 2 生からは大学入試が変わりますが、大学の傾向というのはそれほど変わってくるものではないと思います。

もうひとつ見なくてはいけないものがあります。合格者の最高点・最低点・平均点です。国立大学では出していますが、公立や私立の一部が HP などこのデータを出していません。今日は平成 28 年度の名市大のものを例として用意しました。たとえば医学部医学科なら、センター試験の最高点が 476.23 点、最低点が 413.13 点、平均点が 446.65 点、数学が最高点 150、最低点 70 点、平均点が 123.82 点……学部ごとの点数が出ています。これと皆さんの模試結果を参考にし、戦略を立てます。この時、名古屋大学理系の赤本が非常に役立ちます。大学の傾向と、一人ひとりの得意・不得意、解き方の癖などに合わせたアドバイス、私たちが発信します。データの出ない名古屋大学などは推測し、この教科のここを上げなさいというように具体的に言っていきます。

ですから志望大学が揺れている間は戦略が立てられません。ここがダメならあそこを言っていたら全部落ちてしまいます。大学・学部は「ここ」と言ってもらいましょう。実際、「1 校に絞ったから、迷わなかったから合格できた」という声が非常に大きいので

です。

謙虚になって自分を見つめる

わかる所まで戻る勇気を

基礎学力の大切さとして青チャートや黄チャートの話をしますが、あるお母さんにそれを言っても受け入れてもらえませんでした。その学校は青チャートを使っています。お子さんが不登校気味になっていて、数学のテストが100点満点の4点だったと言います。「留年はあるんですか?」「ありません」「わかりました。でも今はあまり言わない方がいい。代わりに、机の上に白チャートを置いておきなさい」。ここが、入らないのです。取れないものを取るのに必要なものがあります。教科書よりも詳しく書いているのが白チャートです。わからなければここに戻る勇気が、ご家族を含めてなくてはいけないのです。

ではセンター試験では、白、黄、青チャートのどこから出るか。文科省が言っているのは、教科書レベル。白です。偏差値の低いある高校から来る高3生は、みんなセンター試験で9割取っています。なぜかという白チャートや赤本をやって、難しいものはやらないから。これがセンター試験です。謙虚になって、難しい問題に手を出していないかを確認する。また、2次でちゃんと上っていけるのかも見る必要があります。問題を解いた。学校の試験や模試が返ってきた。その時に自分を見つめ、何がいけなかったか、一度したミスはもうしないと、自分に課題を入れていかなければいけません。

「できる」と自分に思わせる方法

名市大医学部を受けるのに数IAで絶対に満点を取れない子がいます。「100点を目指したら取れないよ。120点を目指さないと。100m走で100mがゴールだと減速するでしょ? 120mをゴールにして瞬速で走るんだよ」と言ったうえで、どうしてか聞きました。答えは「数学は最後だから、疲れて解けなくなるんです」。だったら1日15時間やる練習をしたら? 疲れたらラーメンを食べると言っていたので、「ほっとするのは終わってからにしませんか」と言いました。勝負の時にラーメンは食べられませんから。

アスリートが自分を鼓舞する歌がありますが、テストの合間に聴く人もいます。ある人は、ノートを会場に持ち込み、読み込んでぐっとうる。試験で最初の問題から間違える子は、その練習を中学ぐらいから積むといいですね。

浪人生は失敗経験があるから、11月ぐらいから弱ってきます。その悪夢を払いのける、現役合格のためにも使えるいい方法があります。

たとえば、2016年のセンター試験を受けた子。その日か翌日に見直しているから2回やっています。あまりいい結果が出ず、78%の得点率でした。その問題を7月末にもう1回やる。85%ぐらいにはなるはずです。冬休み前にまたやる。90%近くになってきます。さらにセンター試験の前々日か前日にもう一度。すると95%ぐらい取れる、という風に自分を騙すのです。予想問題で青本や黒本というのがありますが、そういうのをここで入れち

やうとダメ。できるものを直前に入れる。すごい！95%取れた！そのまま当日。そうすると取れます。勝負事とはそんなものです。自分を勘違いさせる、すごいと思わせる。オリンピックの金メダリストはそのコツを持っていて、完全にゾーンに入ったのが体操の内村選手。鉄棒で最高点を出し、逆転しました。試験もそのゾーンには入れるかどうかの勝負です。

簡単でしょ？ 50%でも、半分取れたと思う。53%になった。3%も伸びた。いい所を見て自分に言い聞かせる。成功イメージがないと成功しません。どの世界でもそうです。ピアノでも間違えるかなと思ったら間違えます。完璧に出来るとと思ったら無の境地。それぐらい練習する。赤本をラサール高や灘高が何度もやるのだから、名古屋地区はもっとやらないといけないでしょう。そしてこれもよく言いますが、必ず時間を計測し、時間を短くしながら点数を上げていってください。

不屈のチャレンジ精神と豊かな感性

傾向やデータ分析を味方に合格へ

京都大学医学部の現役合格率は 70 数%。浪人の枠は 20 数%だから、結構きつくなってきます。名古屋大学医学部だと現役合格率が 50~60%だからまだ枠があります。この数字もものすごく大事です。これも読み取って、どこへ行くのかを決めてください。ぼんやり決めても受かりません。また、遠いと思わないで。思ったら木下君、金井先生を思い出して。金井先生はアメリカの国家公務員試験に 1 回で受かりましたが、希望部署の面接で 25 回挑戦し、クリアしました。チャレンジし続ける精神は大人になってもものすごく役立ちます。

目指す大学の教授たちに認められる学力を持ち、書いてほしい答案を書いて合格する。1 回でダメならレベルアップして再チャレンジする。今日の新聞にこうありました。「小さな子どもになって草むらを歩いてください。虫の音や草の葉のざわめきが聞こえます。今、秋の中にいます」と。日常の中で忘れがちなそういった感性が、大学の傾向にピタッとハマっていきます。

繰り返します。各大学の赤本に傾向と対策が出ています。公立や私立は入試分析の最新情報が HP などから取れます。これらをよく見て、どこを狙うか決めてください。

今年、名古屋大学医学部に合格した南山高生 6 名のうち、南山女子は浪人 1 名、現役 1 名だけです。不合格だった他塾の生徒のお母さんと立ち話をしました。「物理を取ったから落ちた」と言っていたのですが、そうではなく分析が悪いのです。浪人生と現役生の問題が変わる学年であり、現役が弱かった。それを読み込む訓練が必要です。「センターも失敗していました」と言っていたのですが、基礎を謙虚になってやる必要があります。

センター試験が導入されたのは、基礎なしでは応用はできないことと、商業高校や工業高校の生徒に門戸を開き、普通大学に入れるようにしたというのが理由。数 I A に九九が入っている教科書もあります。そこまで戻ってでも基本をしっかり固め、データを分析して

大学・学部を決めれば、合格をゲットできます。